

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

# 止めよう! 変形労働制 28

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.28

全北海道教職員組合

2019. 11. 29

## 参議院文教科学委員会で変形労働導入の参考人質疑 「国の想定を超えて必ず暴走する」と 現職の教員から厳しい指摘



### ●参議院文教科学委員会で参考人質疑

28日(木)の参議院文教科学委員会で、変形労働導入を可能とする法改正案について、参考人質疑が行われました。与野党推薦の4名の参考人がそれぞれ意見陳述し、その後、6人の委員から参考人への質疑が行われました。

岐阜県公立高校教諭の西村祐二さん(筆名「斉藤ひでみ」)は、憤りとともに、制度導入の問題点を厳しく指摘しました。



### ●「率直に言って大変憤っている」～高校教諭、西村祐二さん

冒頭、変形労働導入について「率直に言って大変憤っている。政府の言うように教員の長時間労働を改善するための方策ではない。むしろ現場実感として業務を増やす可能性が大きい。大多数の教員はこれを望んでいないと考える。教職の魅力を上向するものにもならない」と厳しい言葉で反対を表明しました。

そして、変形労働導入で「8時間分の仕事を9時間かけてやってくださいということになるのでしょうか。勤務時間みっちり仕事が割り振られるのが学校現場だ」と学校の勤務の実態を話し、「これは、残業が『自主的』と定義され、何ら規制が欠けられていないことに大きく関係している」と指摘しました。

また、各自治体が条例により変形労働時間制を導入することを想定し、文科省で省令や指針を定めることについては、「変形労働は国の想定を超えて必ず暴走する。国がどんなガイドラインや指針を示しても、強制力を伴わないと歯止めにならないのが教育現場の実態だ。この法律制定は総力戦で挑む働き方改革の一里塚ではなく、公教育崩壊のポイントオブノーリターン(回帰不能点)だったと記憶されると思う」と懸念しました。

### ●変形労働時間制は総労働時間削減のための優先課題ではない

連合事務局長の相原康伸さんは、制度導入について「高度な勤務時間管理が必要であり、現状、導入は困難だ」と述べ、全日教連委員長の郡司隆文さんも同制度により管理職の業務負担が「増える」と認めました。その後行われた議員の質問に対し、4人中3人の参考人が、変形労働時間制は総労働時間削減のための優先課題ではないと表明しています。

変形労働導入の委員会審議は、来週の委員会開催日である12月3日(火)での審議をもって終了し、採決するとの見方もあります。教職員のいのちと健康に関わる重大な法案にも関わらず、わずかな審議時間での採決強行は許されません。徹底審議の上、廃案を強く求める声を、各地で上げていきましょう。